北海道離島航路確保対策協議会（羽幌航路）における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

羽幌港と焼尻島、天売島を結ぶ離島航路(羽幌～天売航路）は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。

本航路は、生活物資及びごみ処理、し尿処理車輌の輸送等においてなくてはならない生活の足であり、また、各離島住民は本土の羽幌町の病院や歯科医院へ通院しており、本航路の利用が不可欠となっている。

令和４年３月現在、離島住民の人口は焼尻島が171人、天売島が258人で年々減少し、過疎化も進行しており、また、令和４年３月現在における高齢化率は、天売島で42%、焼尻島で57%と著しく高い状況にあるなど、航路を取り巻く環境は厳しく、事業者が単独で航路を維持していくことは困難であり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

地域公共交通の現況

・沿岸バス(株)
（町内３路線、札幌１路線）
・本離島航路　のみ

生活交通確保維持改善計画の目標

羽幌～天売航路の利用者は、島民の利用がおよそ２割弱で推移しており、観光客など島外からの利用者が８割以上を占めている。

事業者はもとより関係者の連携のもと、下記の取組を実施している。令和４年度は、コロナ禍ではあるが、前年度より航路利用者は回復傾向で推移したところ。

・自然体験の学習を目的とした利用者の誘致や学生、家族割引、レンタカーセット割引の実施
・天売島のウニ、焼尻島のサフォークめん羊、羽幌町の甘エビなど地域の味覚を活かした観光イベントとの連携による利用客数の向上
・フェリー乗船割引特典付きの管内バス乗り放題周遊券（フリー切符）の販売
・天売島の海鳥の写真撮影など、体験型ツアーの開発・実施

今後も観光地としての魅力づくりと上記取組に係る情報発信により観光客の維持・拡大を図り、年間約37,000人以上の航路利用者の確保及び欠損の抑制に努める。

協議会開催状況

・令和４年６月３０日（web開催）
令和４年度第１回協議会
（主な協議事項）
令和５年度離島航路確保維持計画案の検討

令和４年度事業概要

天売島・焼尻島両島と本土とを結ぶ唯一の交通手段で、島民の通院や買い物、両島での観光客やビジネス関係者が主な利用者となっており、閑散期（9月1日～5月31日のＧＷを除く）においては1日1～2便、繁忙期(6月1日～8月31日）においては1日4～6便の運航をすることとしている。

令和４年度事業の実施状況

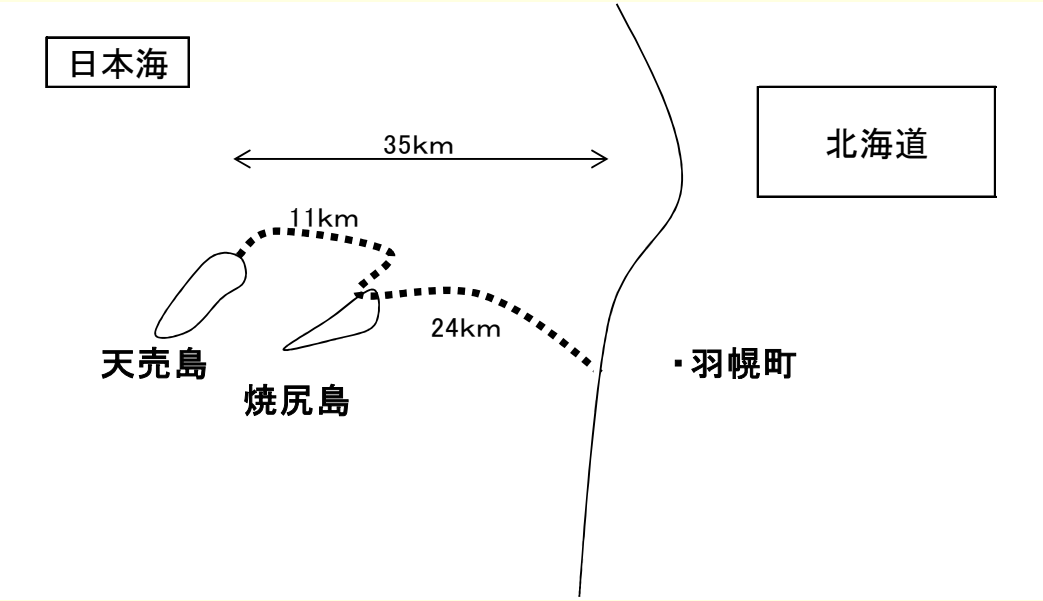
１）プロセス、創意工夫

離島航路事業運航計画に基づき、航路事業者は、関係機関と連携し、次のとおり事業を行った。
①バス事業者と連携した取組
　・路線バスの乗り放題きっぷ（萌えっ子フリーきっぷ）の提示による割引運賃を設定
②レンタカー会社及び地元ホテルと提携した取組
　・特定のレンタカー会社で車をレンタルした方は、フェリー運賃について割引運賃を設定
　・はぼろ温泉サンセットプラザの協力により、上記割引に加え、温泉入浴料も割引料金を設定
③経費の削減
　・競争入札の実施（船舶修繕費、燃料費等）など

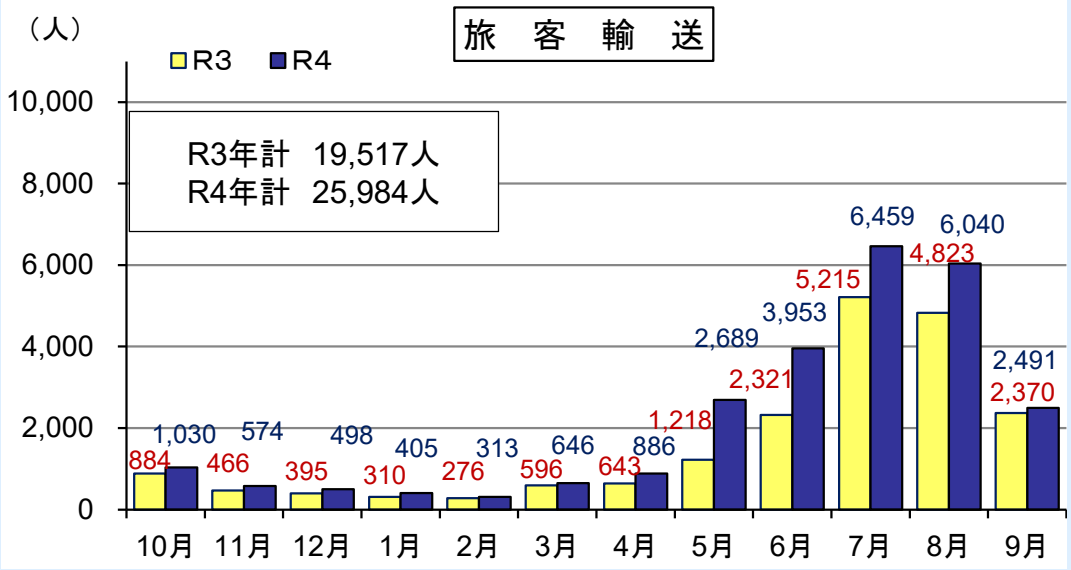
【参考：羽幌町】
・航路事業者と連携し、札幌市内で「天売島・焼尻島PRイベント」を開催（R4.7）など
【参考：振興局】
・振興局ＨＰやＳＮＳ（公式インスタグラム「RuRuTime」）などを活用しながら、島の魅力を情報発信

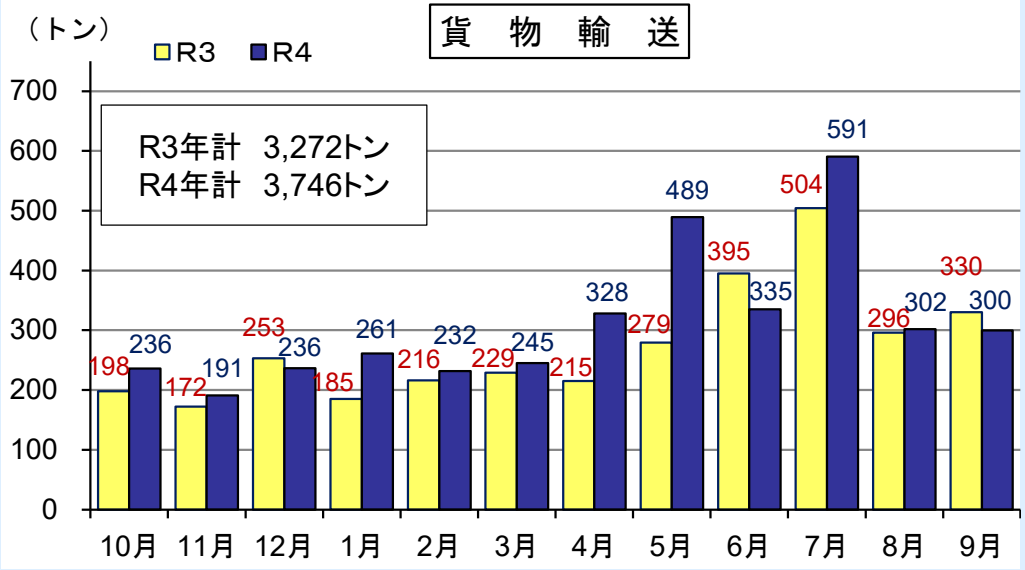
２）運航航路

国定公園焼尻島（手前）天売島（奥）

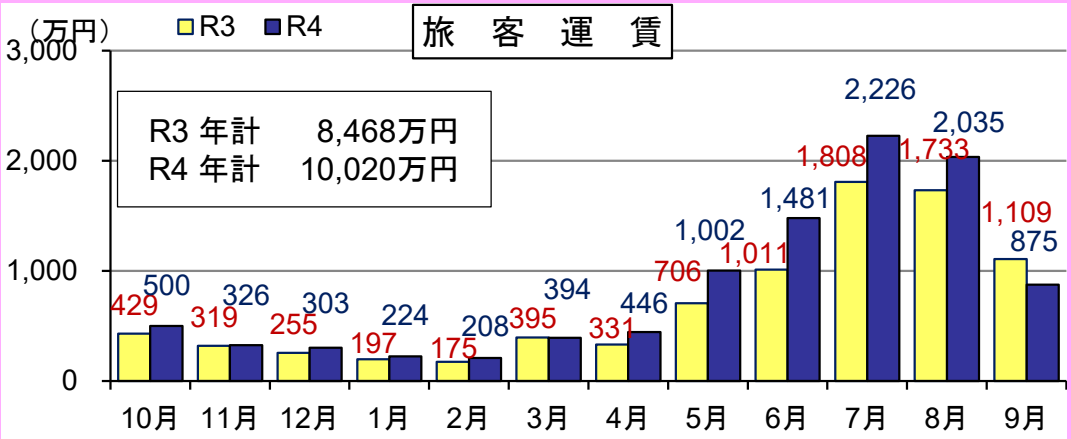


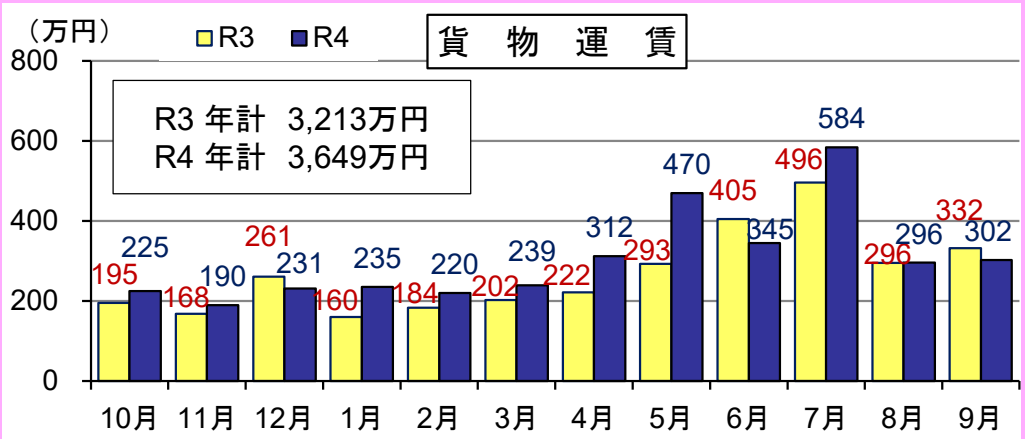
３）利用実績





４）収入実績





※旅客運賃には自動車航走運賃を含む。

〔令和４年度（R3.10～R4.9）の状況〕

・旅客利用、旅客運賃：ともに前年度と比較し、増加している。

・貨物利用、貨物運賃：ともに前年度と比較し、増加している。

5）事業実施の適切性

運航計画に沿って適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

計画時の実績見込に対する達成状況については次のとおり。

○旅客輸送実績
目標値：30,491人　実績値：25,984人（▲ 4,507人　達成率：約 85%）
○貨物実績
目標値：3,343トン 実績値：3,746トン（ ＋403トン　達成率：約112%）

○運賃収入実績
・旅客運賃
目標値： 72,263千円　実績値： 56,996千円（▲15,267千円　達成率：約 79%）
・貨物収入
目標値： 32,889千円　実績値： 36,491千円（＋ 3,602千円　達成率：約111%）
●収入合計
目標値：171,075千円　実績値：181,080千円（＋10,005千円　達成率：約105%）

○燃料潤滑油費
目標値： 59,623千円　実績値： 67,461千円（＋ 7,838千円　達成率：約 88%）
●費用計
目標値：359,016千円　実績値：378,721千円（▲19,705千円　達成率：約 95%）

●純損失（収入合計－費用合計）
目標値：187,942千円　実績値：197,641千円（▲ 9,699千円　達成率：約 95%）

利用客人数・旅客収入は目標値に届かなかったが、収入額としては補助金等の雑収入の増により181,080千円となった。費用も燃料単価の高騰や燃料消費量の増加、高速船に係る修繕増加により費用が増額となり目標値より拡大し、計378,721千円となった。結果、欠損額としては目標値を9,699千円上回る197,641千円となった。

7）事業の今後の改善点

イベント参加等をはじめとしたプロモーションや広告宣伝事業の実施については、一定程度、実施出来たものと考えており、今後も感染拡大の状況に注視しつつ、関係機関と連携した利用促進に向けた取組を継続していくとともに、一層の経費削減を行い欠損額の抑制に努める。

8）地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

新型コロナウイルスの影響による旅客数が減少している状況や燃料費の高騰などにより経営が厳しい状況であったが、船舶消耗品など運航事業者自らも経費の節減を行うとともに、安全運航につとめ、適切に事業が実施されている。引き続き新型コロナウィルスの感染拡大防止対策をはじめとした取組を行い、コロナウイルスの感染状況に応じて関係機関と連携した旅客利用促進の取組みや天売島、焼尻島の魅力を発信するような宣伝広告を行い、フェリー利用促進を図るとともに、一層の経費削減を行い、欠損額の抑制につとめることを期待する。